

数学を学んでこられた皆さんへ

令和2年度 数学・数理解析専攻長

日野 正訓

このたびは、ご卒業おめでとうございます。

京都市勧業館「みやこめっせ」での卒業式は施行されたものの、令和2年初頭から続くコロナ禍のため、前年度に引き続いて令和2年度も、数学教室での学士学位記授与式は中止せざるを得ませんでした。晴れの門出を数学教室で一緒にお祝いすることができなかったのは残念です。コロナ禍においては、誰も経験したことのない状況下で皆さんは勉学を行うことになりました。皆さんにとって試練の一年ではなかったかと推察します。無事ご卒業に至った喜びを分かち合いたいと思います。

昨年から日常はがらりと変容しました。当たり前のように思っていた慣習や、強固に見えた社会のシステムが覆され得ることを痛感した日々であったとも言えます。代わって、三密の回避、マスク着用、アルコール消毒といった新たな生活様式や、オンライン授業、テレワークや遠隔会議のような授業形態・勤務形態が急速に浸透していきました。皆さんはこれから、社会で働くにしても大学院に進学するにしても、非日常が通常となるような実体験を経た世界観の下で、日々の営みと否応なく関わっていくこととなります。不確実性の高い時代に何を指針とすればよいのか、それには万古不易の真理たる数学を抛りどころに、というのは短絡に過ぎる主張かもしれませんが、早々には色褪せることのない知識や理論基盤が今後ますます重要性を帯びてくると思われます。

皆さんが数理科学系に進み、卒業されたということは、数学という普遍性を持つ学問に興味を持ち、現代数学の世界の門を叩き、その基礎学力が認定されたということであり、まずはそのことについて自信を持っていただきたいと思います。さらなる専門性を追究する人にとって、ここで習得した知識体系は今後の土台となるでしょうし、新たな道を選ぶ人に対してはそれらが人生を彩り、時には後ろ楯の役割を果たすことを願っております。また、勉学の過程で皆さんは、長い論理の道筋を追う力、抽象的な概念を理解し駆使する力、未知の問題を粘り強く考える力などを涵養したといえるでしょう。そのような汎用性のある能力の蓄積が、この先も挑戦的な事態に直面した際の支えとなり、そして洋々たる未来を切り拓いていくための着想の源になってくれるものと期待します。

皆さんのさらなる飛躍を祈念して、はなむけの言葉といたします。